

2017.10

公開シンポジウム「雑草・人・環境シリーズ」

葛からクズへ ―日本古来の有用植物がいま強害雑草に―

<プログラム>

第1部：葛と人間生活の関わり：利用から被害まで

- ・葛布の話（小崎葛布工芸株式会社 小崎隆志）
- ・吉野本葛の話（株式会社井上天極堂 川本あづみ）
- ・葛利活用プロジェクト：掛川市の取り組み（掛川市役所 榛葉貴博）
- ・葛からクズへ：社会・経済的考察（NPO 法人緑地雑草科学研究所 伊藤幹二）

第2部：クズ問題の現状・実態と対策の基礎

- ・林地における歴史と現状（大同商事株式会社 越智和彦）
- ・農地における現状
(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 畜産部門 井出保行)
- ・鉄道における現状（株式会社アセント 池村淳）
- ・道路における現状（NPO 法人緑地雑草科学研究所 佐治健介）
- ・河川における現状（公益財団法人河川財団河川総合研究所 山本嘉昭）
- ・太陽光発電所における現状と対策（株式会社白崎コーポレーション 波賀宏治）
- ・管理とクズの反応：対策の技術的基礎
(NPO 法人緑地雑草科学研究所 伊藤操子)

第3部：クズと葛：地域の新たなシステム作りに向けて

- ・総合討論

(コーディネーター：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 黒川俊二)

10月15日（日）、ウインクあいちにて、第8回目となる公開シンポジウム、「雑草・人・環境シリーズ」葛からクズへ ―日本古来の有用植物がいま強害雑草に― が開催されました。あいにくの小雨混じりの天候でしたが、100名を超える方々が参加され、非常に活気のあるシンポジウムになりました。

今回のシンポジウムは、8回目にして初めて午前午後を通しての開催となりました。第1部では、葛を利用する立場から葛布の話、吉野本葛の話、掛川市における葛利活用プロジェクトの取り組み紹介があり、会場内では葛布の展示や、葛湯の試飲による活用紹介もありました。また、過去から現在に至る環境変化の中で、葛がどのように利用され、今日有害雑草と認識されるに至ったのかの講演がありました。

第2部になると、各場面におけるクズ問題の現状についての紹介がありました。今回、林地、農地、鉄道、道路、河川、太陽光発電所の各場面でのクズ問題が取り上げられ、各場面共通でクズに非常に困っている実態が明らかになりました。なお、第2部の最後の講

演では、クズの管理に対しての反応についての解説があり、各場面で対処的に行っているクズの刈り取りが、結果としてクズ発生量の増加につながっている、という点が印象的でした。

第 3 部では、ここまでに紹介した葛の利活用及びクズの防除問題について、総合討論が行われました。この中で、クズの利用における諸問題、防除・制御に関する諸問題についてより良い方向に向かっていくためには、時間的・場面的・組織的なつながりが重要な要素であることが示唆されました。総合討論の時間内ではクズ問題についてどう提言するか、までは至りませんでした。多様な立場の方々にクズに関心を持ってもらい非常に活発な意見交換ができたことで、クズ問題解決のためのシステムづくりに向けて、まずは第一歩目を踏み出すことができたのではないかと期待します。

多数のご参加、ありがとうございました。

なお、今回のシンポジウムで紹介した内容については、“草と緑” 特別号として刊行を予定しています。